

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第32号】

発行人 宮本伸一

事務局 長野市西長野6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026)238-4370



会員とともに歩む 同窓会に

同窓会長 宮本伸一

第30回通常総会で会長職にご推挙いただき、浅学非才な自身をも省みずに、第16期会長職を引き受けました。諸先輩方をはじめとする会員の皆様のご理解とご支援をいただき、本同窓会の発展のために、微力ではございますが、その責を果たしてまいりたいと考えております。どうぞよろしく願います。

このような立場に立ち、改めて「同窓会の役割」を考えてみました。同窓会には、同窓生のネットワークの基地局として、情報発信したり、親睦を深めたりする役割があります。また、学部環境充実の一助を担うことや、学部生が生き生きと学生生活をおくるための助成や、教職を目指す学生への支援を充実する役割が課せられているように思います。昨年度、同窓会創立30周年記念事業として「赤煉瓦館」の整備工事を完了し、同窓会館としての活用を図ったのも、その一つであります。

これまでの同窓会の実績に学び、今後も信州大学校友会・同窓会連合会との連携、支部組織の強化と

組織充実、研究助成、学部後援を推進するとともに、会報の発行、ホームページの更新を通して、会員の皆様にとって同窓会がより身近なものとして存在できるように、各事業を進めてまいりたいと思います。

さて、信州大学の他学部同窓生に比べ、教育学部同窓生には特徴的な事があります。それは、長年多くの同窓生が長野県以外の教育現場を支えてきたことです。一方で、長野県以外の教育現場であったり、企業等への就職であったりと、様々な面で活躍いただいている同窓生の皆様がいることも忘れてはいけません。

ご存じのように、平昌冬季オリンピックでは、教育学部同窓生で、現在、相澤病院に所属する小平奈緒さん、当時、学部4年生だった一戸誠太郎さんがスピードスケート競技に出場しました。学部主催の壮行会では、同窓会としてもエールを送りました。大会での小平さんの金メダル・銀メダル獲得、一戸さんの今後につながる活躍は、我々同窓生にとりましても、うれしく誇りに思うところでございます。

また、小平さんの言動は、多くの報道で取り上げら

れました。競技者としての自覚とともに人間としての真摯な姿勢に、胸を打たれたのは私だけではなかったと思います。8月の総会では、コーチである結城匡啓教授のご高配をいただき、講演会講師に小平奈緒さんをお迎えすることとなりました。多くの皆様にご参集いただければ幸いです。

信州大学は1949年に創立され、来年は創立70周年を迎えます。併せて旧制松本高等学校も100周年となり、記念事業が計画されています。校歌の制定もその一つです。教育学部の沿革をこの紙面で紐解くことはできませんが、同窓会としては30年の歩みを自負し、会員の連携を一層深めたいと願っております。濱田州博信州大学学長が今年の入学式の式辞の中で「気づきの力」や「深く考える力」を身に付けることが肝要と話されていました。同窓会もこの二つの力が発揮できますよう、会員の皆様とともに歩んでまいります。皆様の力強いご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

【一般公開】

信州大学教育学部同窓会 第31回通常総会

小平 奈緒氏 記念講演会

8月11日(土・祝)
開演 12:00
ホテル信濃路



★みなさまお誘い合わせのうえご参加ください★

※詳しくは、8ページをご覧ください。

第三十回 同窓会通常総会報告

1. 通常総会の日時・会場
平成29年8月11日(金・祝) 午前1時開会
ホテル国際21『芙蓉の間』 長野市県町576
2. 出席者数 62名
3. 開会宣言 西澤 道生 副会長
進行…小池 秀雄 幹事長
土屋 聖史 会長
4. 挨拶
5. 議事
議事に先立ち、会則第16条に基づき、総会議長の互選を行う。
議長団の選出
青木健一・寺島寿一の両理事を議長団に選出した。
議事録署名人の選出と書記の任命
小林和人・小林重之の両理事を議事録署名人に選出し、佐藤武・森下孟の両幹事を書記に任命した。
- 第一号議案
平成28年度事業報告書、歳入歳出及び財産目録の承認について
(1) 中村直人事務局長より総会資料に基づき、平成28年度事業について説明があった。
(2) 山岸千賀子幹事より資料に基づき、平成28年度一般会計歳入歳出決算、特別会計決算、基本財産決算並びに財産目録について説明があった。また、三澤弘幸監事より業務監査・財務監査の結果、適正に処理されているとの報告があった。原案どおり賛成多数で可決した。
- 第二号議案
平成29年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
中村直人事務局長より資料に基づき、平成29年

平成28年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成28年4月 1日
 至 平成29年3月31日

歳入合計額 5,217,497円也
 歳出合計額 4,710,800円也
 差引残額 506,697円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	予算額に対する増・減	備 考
1前年度繰越金	757,338	757,338	0	
2会 費	5,000,000	4,460,000	△ 540,000	233名入金
3雑 収 入	1,000	159	△ 841	利 子
歳 入 合 計	5,758,338	5,217,497	△ 540,841	

〈歳出の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	予算額に対する増・減	備 考
1会 議 費	580,000	430,765	△ 149,235	総会・役員会等
2事 業 費	1,300,000	1,111,859	△ 188,141	会報・学部後援等
3事 務 費	1,615,000	1,449,724	△ 165,276	会報発送・印刷等
4事務委託費	1,586,000	1,586,000	0	雇用費等
5雑 費	150,000	132,452	△ 17,548	連合会会費・謝恩会御祝儀他
6予 備 費	527,338	0	△ 527,338	
歳 出 合 計	5,758,338	4,710,800	△ 1,047,538	

- (2) 度事業計画(案)についての説明があった。
山岸千賀子幹事より資料に基づき、平成29年度一般会計歳入歳出予算(案)についての説明があった。原案どおり賛成多数で可決した。
- 第三号議案
第16期役員の改選について
土屋聖史会長より、役員改選についての説明があった。原案どおり全員一致で可決した。
6. 閉会宣言 西澤 道生 副会長

第十六期同窓会役員名簿

(平成29年8月～平成31年8月)

名誉会長	永松裕希	顧問	佐野昌男	中田宣彦	三寺勝美
			玉川隆雄	町田 修	深澤弘二
			中澤 寛	土屋聖史	
会 長	宮本伸一	副会長	小林 亨	清水秀明	池上昭子
監 事	原田良介		松本千恵子		
本部理事	西澤道生		中村礼子	畔上一康	
	岩田 靖		齊藤忠彦	小林比出代	
	茅野公穂		茅野理恵	伊藤冬樹	
	安達仁美		瀧 直也		
地区理事	下伊那	川手浩司	上伊那	藤澤義富	
	諏訪	柳平正司	木 曾	勝岡美智也	
	北安曇	山崎 晃	安曇野	細 萱	
	松 本	湯本武司	佐 久	小林英明	
	上 小	片桐芳之	更 埴	中澤英治	
	上水内	小林重之			
	須坂上高井	寺島寿一			
	中野下高井	清水恒善			
	飯山下水内	小林和人			
	塩 筑	横山卓朗			
	長 野	中村和雄	林 臣彰		
	高 校	富岡 修			
	県 外	功刀道子	井出良子		
幹 事	和田 裕				
	加藤 浩	(30年3月)			
	水倉美和子	(30年4月)			
	宮尾弘子	酒井英樹	佐藤 武		
	森下 孟				
事務局	中村直人	新谷静香			

ご挨拶

教育学部長 永松 裕希



教育学部入学生250名、大学院入学生50名を迎え、平成30年度がスタートいたしました。皆、教育学部の伝統を受け継ぎ、これからの学校教育を支えてくれる人材ばかりと確信しております。同窓会の皆様へのご挨拶の機会をいただきましたので、最近の教育学部の主だったできごとをご紹介します。

昨年度の夏の終わり頃、「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」が取りまとめられ、文部科学省より公にされました。これは今後の国立の教員養成系大学・学部のあり方に関し、学部、大学院そして附属学校園の課題と今後のあり方を中心とした観点から検討したものであります。そしてこの報告書を受けて、各教員養成大学・学部は、秋にかけて個別に文部科学省との意見交換を持ちました。平成29年度の中盤以降は、この新たな改革に向けての対応が信州大学教育学部にとっての大きな節目でもありました。幸いながら、学部、附属学校園のこれまでの実績や新たなチャレンジが評価され、何とか乗り越えることができたように思いますが、終わりのない改革に身の引き締まる思いでおります。平成30年度は、まさに次の時代に向けての具体的な取り組みが求められるスタートの年となっております。

昨年度の後半は、思いがけないことが二つありま

した。ひとつは、平昌オリンピック冬季競技大会において、本学部と同窓会にゆかりの深い3名である一戸誠太郎選手（平成29年度卒）、小平奈緒選手（平成20年度卒）、そして山中大地選手（元職員）が大活躍してくれたことです。同窓会員の皆様も熱い声援を送っていただいたことと思います。本年度の入学式におきまして同窓会連合会賞を受賞した小平選手は、教育学部入学生にも熱いメッセージを送ってくれました。世界で活躍する教育学部の先輩に直接会い、入学生たちは思いがけないサプライズに大喜びでした。

さて、もうひとつは、国の働き方改革が、マスコミにも大きく取り上げられ、とりわけ学校における教師の働き方に対して強い関心を集めています。附属学校園における働き方の改革も強く求められています。教員養成を目的としている本学部におきましても、正面から取り組むべき課題であります。附属学校園は、同窓会員の皆様にも思い出深い存在かと思いますが、長い伝統を守りつつも、将来の子供たちの教育をリードしていく存在として、改革に取り組んでいるところです。

同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、教員採用に向けての模擬試験の実施など、多大なご協力をいただいております。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げます。これからも学部・大学院の教育研究へのご理解をお願いするとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。



学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成30年度新転任教員】

志村 佳名子 先生（社会科教育）
奥村 真衣子 先生（教職大学院）
宮島 新 先生（教職大学院）

【平成29年度転退職教員】

牛山 佳幸 先生（社会科教育）
昭和60年7月1日 着任、定年退職
石澤 孝 先生（社会科教育）
昭和61年12月1日 着任、定年退職
大藪 勝 先生（教職大学院）
平成28年4月1日 着任、退職
（長野県との人事交流）



記念祝賀会

68名のご参加をいただき、盛大に祝賀会を行いました。
オープニングでは、音楽科の学生さんたちによる琴の演奏
で盛り上げていただきました。



記念講演



青山学院大学陸上競技部監督の原晋氏をお招きし、
『「箱根駅伝」から学ぶ成長するための秘訣』と題して
ご講演いただきました。

箱根駅伝3連覇、大学駅伝3冠王を成し遂げたチーム
をどう育ててきたか、約300人の聴衆が聞き入りました。

厚い情熱と信念をもって指導するそのお人柄にも魅了
され、創立30周年記念にふさわしい講演会となりました。

寄付の報告と御礼

30周年記念事業を進めるにあたり、会員の方々より寄付を募集しましたところ、多くの
方からお志をいただきました。ここにご報告するとともに、厚く御礼申し上げます。

いただいたお志は、赤煉瓦館備品の充実のため
に使わせていただきます。

1. 寄付の期間 平成29年6月～平成30年4月
2. ご寄付いただいた方 306名
3. 寄付総額 2,285,000円
4. 購入物品 (平成30年6月現在)
 - 赤煉瓦館 1階会議室用家具
(テーブル1・椅子8・書棚1・時計)
 - 電化製品
(IHレンジ・ポット・冷蔵庫・掃除機・
電子レンジ・ファンヒーター)
 - 2階ホール (会議用机5・演台1・時計)
 - 事務室 (事務机2・回転椅子2)
 - その他 (下足箱2・靴べら・お盆2)



さらなる発展に向けて

～平成29年同窓会創立30周年記念事業報告～

赤煉瓦館の整備

30周年記念最大の事業として進めてきた「同窓会赤煉瓦館」の整備が完了しました。

【竣工式】平成29年8月11日(金)

濱田州博学長、平野吉直副学長、永松裕希学部長、土屋聖史同窓会長の列席で、竣工式及びテープカットが行われました。



自由見学



学部関係者、同窓生、近隣住民の方々など多くの方が完成した赤煉瓦館を見学。音楽科院生・相馬彩乃さんのピアノ演奏によるBGMが会場の雰囲気を盛り上げた。



記念式典 平成29年8月11日(金) ホテル国際21にて 参加者80名



土屋会長の挨拶



濱田学長のご祝辞



土屋会長より永松学部長へ、目録にて赤煉瓦館の寄贈をする

一 式 次 第

- 1 開式のことば
- 2 同窓会長挨拶 (土屋会長)
- 3 来賓祝辞 ○ 信州大学 濱田学長
- 4 来賓紹介
- 5 「赤煉瓦館」整備の経過報告
(齊藤忠彦 同窓会幹事)
- 6 「赤煉瓦館」の寄贈
○ 土屋会長より永松学部長へ目録にて寄贈
○ 永松学部長より謝辞
- 7 閉式のことば
＜来賓＞
○ 濱田州博学長 ○ 永松裕希学部長
○ 酒井清副学部長 ○ 桂本和弘尚学会長
○ 宮本忠長建築設計事務所宮本仁夫所長
○ 守谷商会吉澤浩一郎副社長

研究補助事業

教育学部同窓会・研究補助事業のご案内

平成15年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切に、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に1万円を補助しています。

応募希望者は、所定の様式『研究補助願及び研究概要』にしたがって、同窓会事務局（〒380-8544 長野市西長野6-10）にお申し込みください。当該年度の11月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会Webサイトをご覧ください。なお、当該年度の研究補助は先着10名までとなっています。受付可能かどうかを確認しますので、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください。

平成29年度研究補助事業報告

子どもたちの体力向上を目指して、運動の楽しさを感じながら体力向上を図る取り組み

中野市立高丘小学校 島田 祐次

子どもたちが自らの体力に目を向け、主体的に体力の向上に取り組むにはどうしたらよいか。また、運動が苦

手な子どもたちも体を動かす楽しさを感じられるようにするにはどうしたらよいか。この二点について取り組んできた。

一点目については、子どもたちが自らの体力アッププログラムを作成して体力の向上に取り組んだ。まず、昨年度の体力テストの結果から、自らの体力のよさや課題を把握し、今後伸ばしていきたい点を明確にした。その上で、子どもたちは教師が紹介した運動を実際にどの身体部位を使っているのかを意識しながら試していた。そして、自らの課題や伸ばしたい点を考慮して自分の体力アッププログラムを作成した。その後も、「鉄棒や雲梯も体力アップになりそう」など子どもたちの方からもメニューの追加が行われていった。実際に体力アッププログラムは、朝の活動の時間や体育の授業時間などを利用して行った。また、養護教諭とも連携し、運動以外の食事と睡眠についての保健指導も行った。体力を向上させるには、バランスのよい食事・適度な睡眠・運動の全てが大切であることを学んだ子どもたちは、日々の生活を見直し自らの体力アッププログラムに活かしていった。

二点目については、体力アッププログラムのメニューを、複数人で行うものも取り入れた。個人で行うメニューももちろんあるが、友とかかわり合いながら一緒に体を動かす内容を多く取り入れた。また、普段子どもたちが行っている遊びもメニューに位置づけ、遊び感覚で体力を高めていくことができるようにした。

今回の取り組みで、子どもたちが自らの体力を見つめ身体への意識を高めた、体力の捉え直しをした、運動にかかわれるようになってきた。また、運動が



苦手な子どもも得意な子どもも一緒になって楽しみながら活動することができた。友だちと体を動かすことでかわりが生まれ、一人では感じるできなかった喜びを感じることで、運動が苦手な子どもたちの運動へ向かう姿勢が変容してきたように思う。「楽しかったからまたみんなと一緒に体を動かしたい」と運動のよさを感じ、自ら体を動かそうとしていくきっかけとなった。さらに、全校に体力アッププログラムを広め、全校の体力向上を目指そうと子どもたちは活動に取り組んでいる。

その他、平成29年度助成交付の研究テーマは次のとおりでした（全9件）。

- ・菅沼 太郎（長野市立柳町中学校）
「仲間とともに願いを共有し、気づきを伝え合いながら、生徒一人ひとりが目指す姿にせまる保健体育学習のあり方」
- ・清水 恒善（山ノ内町立山ノ内中学校）
「持続可能な社会づくりを担う生徒の育成」
- ・ESDの研究と実践」
- ・野木 村恵（長野市立豊野中学校）
「言葉へのこだわり」
- ・沖 美鈴（長野市立長野中学校・長野高等学校）
「意欲をもつて学び続ける古典学習のあり方」
- ・学における古典学習の工夫」
- ・竹内 優美（長野市立松代小学校）
「地域の特性を活かした総合的学習の時間」
- ・小林 亨（小川村立小川小学校）
「英語が好きで、英語力を自ら高めようとする生徒」
- ・木次 美穂（東御市立北御牧小学校）
「『気付き、考え、行動する』を視野に入れた防災教育」
- ・赤池 あゆみ（須坂市立小山小学校）
「身近な生活から課題を見つけ、主体的に追究していく社会科の授業のあり方」
- ・地域素材を生かした授業作りに焦点をあてて」

卒業・修了生の就職状況

就職部長 岡田 匡史

本学部就職支援活動に対し、教育学部同窓会には日頃より多大なるご支援を賜り、心より感謝いたします。

平成29年度『卒業生・修了生進路状況』が下表のとおりまとまりましたので、ここにご報告いたします。表を詳細に確認しながらになりましたのは、学部教員就職率のここ数年続く通減傾向であります。昨年度と比べ約1%減りました。昨年度就職部長の西正明先生は、「最近の景気上昇感、着任猶予制度の利用」を減少要因に挙げましたが、近年の教職離れの傾向に何とか歯止めを掛けたいと思います。なお、着任猶予制度とは教採合格者が2年間の院在籍後に教職に就ける仕組みです。

本年度長野県教員採用試験の一次選考が7月7・8両日と発表されました。採用枠が昨年度より拡がり、小学校が35名、中学校が20名、特別支援学校が5名、高等学校が10名増えました。教採の勉強を継続し、受験に挑む学部4年生・院2年生が、この機に全員合格して欲しいと切に祈ります。受験者を積極的に支援すべく、4月に教採関連講演会を2回続けて持ちました。模擬集団面接(就職部会と教職実践演習の共同開催)を5月に実施し、8月に一次試験合格者対象の模擬個人面接も設定いたします。一人でも多くの卒業生・修了生が教職に就き、児童・生徒の教育に専心する教員として成長戴きたく願っております。

と同時に、教員志望ではない学生・院生にも可能な限り肌理細かく支援できるよう、公務員・民間企業志願と関わる各種相談に応じる就職相談室を開設し、また、キャリアサポートセンターでは就職ガイダンスを定期的に行い、志願者への情報発信も進めております。教職・教員外職種を合わせた平成29年度就職率は、前年度より約0.5%アップし、95%を超えました。

就職部会では学生・院生の最善を願い、これからも就職支援活動に力一杯取り組んで参りますので、教育学部同窓会皆様より忌憚なきご意見・ご要望をお寄せ戴けますよう、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

平成29年度 卒業生・修了生 進路状況

就職・進路別 学部・大学院別		就 職 先										進 学 先										合 計	備 考	
		内 容										進 学 先												
		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 殊 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 殊 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 殊 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	小 学 校	中 学 校			高 等 学 校
教 育 学 部	現代教育	男 1	1				2 (0)	3 (1)				3 (1)	5 (1)								1	2	7	
	国語教育	男 6 (2)					6 (2)	4 (3)	1			5 (3)	11 (5)								6	1	19	
	英語教育	男 1 (1)	1				2 (1)	1	1 (1)	1		3 (1)	5 (2)								2	1	10	
	社会科教育	男 2	1 (1)				3 (1)					1	4 (1)								2	1	5	
	数学教育	男 3 (2)	1 (1)	1			5 (3)					0	5 (3)								4	2	11	
	理科教育	男 5 (2)	4 (1)				9 (3)	1 (1)	1			2 (1)	11 (4)								5	1	19	
	音楽教育	男 1					1 (1)	1 (1)				1 (1)	2 (1)								2	1	5	
	図画工作・美術教育	男 9 (5)	1				10 (5)	1	1	1 (1)		3 (1)	15 (6)								3	1	20	
	保健体育	男 3	1 (1)				4 (1)	1 (1)				1 (1)	5 (2)								2	1	8	
	ものづくり・技術教育	男 4 (2)	5 (1)				9 (3)	1	3 (1)			4 (1)	13 (4)								1	2	17	
教 育 学 部	家庭科教育	男 3 (1)	1				4 (1)		1			1 (1)	5 (1)								1	1	6	
	特別支援学校教員養成課程	男 6	4 (2)				10 (2)					0	10 (2)								1	1	14	
	生涯学習・社会教育	男 3 (1)	2 (1)				5 (2)	1	1 (1)			2	7 (1)								2	1	14	
	生涯学習・社会教育	男 2	3 (1)				5 (1)					2	7 (1)								2	1	10	
	生涯学習・社会教育	男 2	1 (1)	1			4 (1)	1				3 (1)	6 (2)								1	1	11	
	生涯学習・社会教育	男 2	3 (2)				5 (2)	1	2			3 (1)	8 (2)								1	1	11	
	生涯学習・社会教育	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	生涯学習・社会教育	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	生涯学習・社会教育	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	生涯学習・社会教育	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
教 育 学 部	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成課程	男 4	2				6 (0)	1	1 (1)	1		2 (1)	9 (2)								1	1	16	
	特別支援学校教員養成																							

信州大学教育学部同窓会

第三十一回通常総会(通知)

日 時
平成30年8月11日(土・祝)
午前10時より

会 場
長野市岡田町
「ホテル信濃路」

- 次 第
- 1 開会宣言
 - 2 会長挨拶
 - 3 議長団選出
 - 4 議事録署名人の選任
並びに書記の任命
 - 5 議事
第1号議案
平成29年度事業報告
及び歳入・歳出決算報告について
第2号議案
平成30年度事業計画
(案)及び歳入・歳出予算(案)について
第3号議案
第16期役員交代について
 - 6 来賓紹介・代表挨拶
 - 7 閉会宣言

記念講演会：12時より
講師：小平 奈緒氏
祝賀懇親会：13時より

記念講演のご案内(一般公開)

「駆け抜けた平昌五輪」

講師 小平 奈緒氏

小平奈緒氏は、長野県茅野市出身のスピードスケート選手です。高校卒業後は、信州大学教育学部生涯スポーツ課程に進学、信州大学教授の結城匡啓コーチの指導のもとトレーニングに励んできました。

大学時代には、1年次に日本学生氷上選手権大会の500mと1000mで優勝、2年次に全日本スピードスケート距離別選手権大会の1000mで、また4年次には同大会1500mでそれぞれ優勝するなど、既に日本の女子スピードスケート選手の第一人者としての実力を身につけてきました。

大学卒業後は社会医療法人財団慈泉会相澤病院に所属し現在に至っています。この間、14・15年には、2年間練習拠点をオランダに移して研鑽を積むなど、努力を重ね、世界のトップ選手になるまでに成長してきました。主な戦績は次のとおりです。

- ・2009年 全日本スピードスケート距離別選手権大会 500m、1000m、1500mで3冠
- ・2010年 バンクーバー冬季オリンピック大会 チームパシュート第2位(銀メダル)

- ・2014年 ソチ冬季オリンピック大会 500m第5位入賞
- ・2017年 世界距離別選手権大会 500m第1位(金メダル)、1000m第2位(銀メダル)
- ・2017年 世界スプリント選手権大会 総合優勝
- ・2017・18年 ワールドカップソルトレイクシティ大会 500mで優勝し、ワールドカップ14連勝を飾る。また1000mでは世界新記録の1分12秒09をマーク。

そして、本行われた平昌冬季オリンピック大会では、1000m第2位で銀メダルを獲得したのに続き、500mでは、見事優勝し、念願のオリンピック金メダルを手に入れました。日本の女子スピードスケート初の金メダルであり、オリンピック日本選手団主将として女子初の金メダル獲得でもありました。

小平氏の快挙は、我々教育学部同窓生としても大きな誇りであり、励みともなりました。小平氏の、金メダルへの道のりを中心にお話をお聞きたいと思えます。ご期待ください。

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費五、〇〇〇円)を開催します。

こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

事務局便り

○同窓会Webサイトをご覧ください。

事務局の紹介や同窓会報のバックナンバー等を閲覧することが出来ます。
信州大学教育学部同窓会で検索、または、以下のURLを指定ください。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>

○研究補助受付中

研究補助申請を4月より受け付けております。詳細は同窓会Webサイトをご覧ください。あわせて、本号の6ページをご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されています。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届けを事務局宛てにお願いいたします。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いにご注意ください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振込手数料等がかかりますので全額返金はできません。

○事務局員が交代しました

今までお勤めいただいた伴真理子さんが昨年8月に退職し、後任として新谷静香さんにお勤めいただいています。よろしくお願いたします。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30 ~ 16:00
HP <http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>
Email kdousou@shinshu-u.ac.jp